

区分	分野	方針	具体的措置												年次計画		
			★新規 ★継続	具体的措置の名称 〔太字:優先度の高い事業〕	関連する文化財	主体者							内容				
						市	県	所有者	団体関係	事業者 民間	住民	地域		学校			
[1] 保存	(A) 調査・研究	①埋蔵文化財遺跡台帳や既往調査履歴更新と地理情報システム(GIS)導入	★	①遺跡台帳のGISシステム化	埋蔵文化財	● (文)								遺跡台帳の再整備に合わせて、市で運用している地理情報システム(G I S)に遺跡台帳情報を統合させることで、埋蔵文化財に関する調査や保護の円滑化を進める。	○ 令和7~9年度 (2025-2027)	○ 中期 令和10~13年度 (2028-2031)	○ 後期 令和14~16年度 (2032-2034)
		②分野別・エリア別悉皆把握調査の実施	★	②3市町共同「内陸古砂丘」調査	未指定 未登録	● (文)	●							里沼」の起源と深く関連する「内陸古砂丘」について館林市・邑楽町・千代田町の3市町共同調査を行い、国登録文化財(天然記念物)等への登録を目指す。	○	○	○
		③動植物・景観・民俗分野の経年変化確認調査の実施	★	③館林紬保存のための技術詳細調査	民俗	● (文・商)		●	●	●				地場産業のひとつである館林紬を使った新たな商品及びサービス開発を見据え、技術継承のための詳細調査を進める。	—	○	○
		④調査済文化財の台帳の整備・公開	★	④文化財データベースの整備・公開	全	● (文)		●						文化財や市史編さん事業を通じて集積してきた調査結果を台帳として整理し、そのデータベースを公開することで、文化財の保存・活用につなげるとともに、災害時対応の円滑化も図る。	—	○	○
		⑤地域住民との協働調査の実施	★	⑤地域寺社関連物調査ワークショップ事業 (年度毎に地区を変えて継続実施)	未指定 未登録	● (文・生)			●		●	●		住民参加型ワークショップとして、地域の寺社関連物(建築物・工作物・石碑等)を調査し、地域の歴史文化を再発見する。	○	○	○
		⑥「里沼学」確立のための研究推進と支援	★	⑥「里沼学研究紀要」・「里沼双書」刊行	全	● (文)			●					館林市立資料館や市史編さんセンターによる「里沼」に関する調査・研究成果を研究紀要や双書として刊行し、学術的に深化を図る。	—	○	○
			★	⑦「里沼市民大学」・「里沼サミット」開催	全	● (文)					●	●		「里沼」の浸透・普及を目的として地域住民・活動者向けの「市民大学」、全国規模での「里沼サミット」を開催する。	—	○	○
		⑦産官学連携による調査・研究の実施	★	⑧茂林寺沼湿原地域共同調査	茂林寺沼湿原	● (文)	●		●	●	●	●	●	専門家や研究機関、高校・大学、地域活動者等と共同で湿原や動植物に関する調査を実施しながら、国内でも希少価値のある低層湿原保護に向けた普及・啓発を図る。	○	○	○
			★	⑨ヨシ利活用商品・サービス造成	茂林寺沼湿原	● (文)			●	●			●	地域の活動者と連携して、茂林寺沼湿原管理で生じるヨシ刈後の廃ヨシを活用した新たな商品やサービスの造成・展開を図りながら、持続可能な湿原の保存・活用サイクルの構築に取組む。	○	○	○
		⑧大学や民間と連携した歴史的建造物調査の実施	★	⑩市内歴史的建造物調査の実施	未指定 未登録	● (文)		●	●	●				市内、特に館林駅東・旧城下町エリアに残る歴史的建造物における大学や民間専門機関等と連携しながら調査を進め、記録保存と将来的な利活用事業に向けた基礎データ集積に取組む。	—	○	○
		⑨「境目」地域に由来する調査・研究事業の実施	★	⑪『館林ことば』民俗調査の実施	民俗	● (文)					●	●		市内公民館等との連携や、調査ボランティア等を活用により『館林ことば』に関する民俗調査を実施する。	—	○	○
	(B) 保存・管理	①文化財の指定・登録の推進	★	①新指定・登録候補物件リスト作成	未指定 未登録	● (文)		●						市内にある文化財を価値づけしながら、新たに指定・登録すべき候補文化財を種別ごとにリスト化し、積極的な文化財保存に取組む。	○	○	○
		②指定・登録文化財の維持管理の強化	★	②館林城跡の樹木管理・除草強化	館林城跡	● (文・科)								館林城跡の土塁や三の丸土塁のほか、周辺にある文化財施設を含めた樹木剪定や除草の取組みを強化するとともに、館林藩時代の歴史的風情を体感できるよう城跡関連の再整備につなげていく。	○	○	○
		③現行の市指定文化財制度の見直し	★	③館林市登録文化財制度の検討	未指定 未登録	● (文)		●						市登録文化財制度の新設を検討し、「里沼」関連文化財を中心に登録を行いながら、地域住民が主体となった保存・管理の展開を図る。	○	○	○
		④文化財の所有者・継承者等への支援制度の拡充	★	④文化財継承制度の創設検討	全	● (文)		●	●	●	●	●	●	会社経営・商業などの事業承継のように、文化財管理や伝統芸能等の後継者マッチング支援制度の創設を検討し、地域のなかで文化財を守り、伝える体制を整える。	○	○	○
			★	⑤文化財保存制度周知強化	全	● (文)		●			●			国・県・市や民間財団等による補助金・助成金制度の説明会を定期的に実施し、制度の利用促進と文化財保存・活用を図る。	○	○	○
		⑤記録保存データのデジタル化推進	★	⑥文化財のデジタル記録保存	民俗 芸能	● (文)		●			●	●	●	伝承が困難な伝統芸能や年中行事等を対象としてデジタル技術を用いて記録保存を行う。特に館林駅東・旧城下町エリアの祭りなどを対象に、関係団体や公民館・学校等と連携しながら記録保存を図る。	—	○	○
		⑥指定・登録文化財の個別保存管理計画の策定	★	⑦個別保存活用計画策定の推進	指定 登録	● (文)	●	●						指定・登録文化財における個々の計画を策定しながら、中・長期的ビジョンのもと、コストの平準化や効率的な事業実施に努め、それぞれの文化財の保存・活用を推進する。	○	○	○
		⑦文化財所有者・管理者等との連絡体制構築	★	⑧文化財所有者一斉情報システム	指定 登録	● (文)	●	●	●					メール・SNS などインターネットを活用して文化財所有者・関係団体との連絡網を整備し、日常管理や災害時におけるインタラクティブに情報共有が可能な連絡体制を構築・導入する。	—	○	○
		⑧地域連携による保存・管理コストの低減	★	⑨市アダプト制度による管理・保護	全	● (文・市)		●	●	●	●	●	●	館林市アダプト制度(有償ボランティアを活用した市管理物の清掃・環境美化)と連動して、企業や学校、地域住民など地域と連携した文化財や関連施設等の維持管理・保護に取組む。	○	○	○
		⑨文化財関連の収蔵スペース確保や収蔵庫設備改修の検討	★	⑩文化財収蔵施設更新・改修の検討	全	● (文)								館林市立資料館・田山花袋記念文学館・文化財資料保存庫などの施設更新や設備改修を検討し、文化財施設の収蔵スペース確保、保存・管理機能の強化を図る。	—	○	○
		⑩市文化財防災ガイドラインの策定	★	⑪市文化財防災ガイドラインの策定	全	● (文)	●	●	●					既存の災害時対応マニュアルを見直し、市文化財防災ガイドラインを策定し、災害発生時に備えるとともに、定期的な図上訓練・定期巡検等を実施しながら、非常時における円滑な運用を目指す。また、国や県、他自治体・博物館・大学等と連携しながら文化財レスキュー体制も整備する。	○	○	○
		⑪地域ぐるみの文化財防犯体制の整備	★	⑫地域主体の文化財防犯・レスキュー体制整備	全	● (文・安)	●	●				●		個人所有の文化財や社寺をはじめとする、地域の未指定文化財を含め、地元住民やボランティア等の協力による地域ぐるみで防犯パトロール・レスキュー体制を整備する。	—	○	○
		⑫被災文化財避難先リストの作成	★	⑬被災文化財避難先リストの整備	全	● (文)		●	●		●	●	●	文化財レスキューを行う群馬歴史資料継承ネットワークなどと連携しながら、災害で被災した文化財の避難先である“里沼・川合シェルター”のリストを作成・整備する。	—	○	○
		⑬文化財防災センターとの連携体制構築	★	⑭文化財防災研修への参加	全	● (文)								日頃から文化財防災センターとの関係構築を進めながら、同センターが実施・開催する被災文化財取扱い研修に市文化財関係職員を積極的に参加させ、ノウハウ習得につとめる。	○	○	○

主体者欄：(文)＝文化振興課、(安)＝安全安心課、(市)＝市民協働課、(商)＝商工課、(建)＝建築課、(生)＝生涯学習課、(科)＝向井千秋記念子ども科学館